

「生ごみの資源化についての提言」

2009.11.9 広瀬立成

(I) 生ごみ資源化の特徴

1. 「ごみゼロ市民会議」の提言「家庭生ごみの全量資源化を計画的に進める」について詳細な検討と、実証実験、提言がなされた → 生ごみ部会との懇談会を開く。」
2. 市民一人一人が、町田市ごみ問題の基本理念「作らない、燃やさない、埋めない」を体験し、自らの手で資源化できる唯一のごみ → 町田市の現状の把握が必要。
3. 収集回数の減少、焼却炉の新設を回避できて、環境負荷の抑制と経済効果が非常に大きい → 詳しい数値的な推定が必要。

(II) 生ごみ資源化の目標

1. 環境先進都市を目指す町田市にふさわしい意欲的な目標（年次計画）を立てる。
2. 10年後の全量資源化をめざす（5年後には50%の削減）。
3. 資源化の計画とともに、発生抑制の目標を考える。

(III) 生ごみ資源化の基本的な考え方

1. 肥料化を基軸として、自区内処理を基本とする。→ 収集車なき町田。
2. 一カ所に大きな堆肥化工場を造るのは失敗する：臭い、異物の混入。
3. 肥料化の方法としては、乾燥（後藤方式）、バイオ、EM ぼかし、直接投入などがある。さらに、メタン発酵方式もあるので、経済性、環境負荷、利便性、メンテナンスなどにつき、それぞれの長所と短所を明確にする。

(IV) 町田市らしい資源化の方法

1. 都市と農村の両面を併せ持つ → 人口密度、田畑の分布などを調査して、各地区に適応したきめ細かい手法を用意する。
2. 「収集→堆肥化→野菜の栽培→販売→生ごみ」という地域内循環型社会を完結させるための課題を整理して、北部丘陵地帯での休耕田の再生、公園緑地の整備、販売網の構築などを市民とともに考える。
3. 肥料化機器について、「町田ブランド」を開発する。

(V) 生ごみ全量肥料化に向けた情報活動

1. 説明会、フォローアップ体制の強化（故障、疑問への対応窓口の設置）。
2. 経済的インセンティブ、イベント、生ごみ通信などによる削減効果の開示により、取り組みを支援する。
3. 各地区に、「生ごみ推進協議会」をつくり、毎年、グループ交流会を開催しつつ、情報の共有と連帯意識の向上をはかる。